

朝日新聞

43857号(日刊)

2008年(平成20年)

5月22日

木曜日

第1版	第2版	第3版	第4版	第5版	第6版	第7版	第8版	第9版	第10版	第11版	第12版	第13版	第14版	第15版	第16版	第17版	第18版	第19版	第20版
朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞	朝日新聞

黒田 福美 女優



私は韓国の研究者との協力して、太平洋戦争で日本人として犠牲になった朝鮮人らを慰霊する「帰郷祈念碑」を韓国南部の泗川市に建てた。そこが各地の一部団体から反対が噴出した。今年10日に予定していた除幕式が前日になって中止に追いつめられた。石碑は日々、市で外へ搬送を促されていった。

日本が民族の名前を奪った過さを踏まえ、さまよえる魂の故国への帰還を日本人と韓国人が共に祈ることに、反対などないと思うっていただけた。今回の結果は無念でない。

たしかに私は石碑建立を願っていたのは、日本軍の特攻隊員として犠牲で戦死した朝鮮人の車乗隊などのことを知ったからだ。朝鮮人特攻隊は韓国では殉国奴のふちに扱われていた。実は家族や祖国を思いつつも戦争に巻き込まれていた時代の犠牲者なのだ。

そして、石碑の搬送はあくまで創設された所々の日本兵の死を悼むための世界各地に散らばる韓国の故国へ帰郷する人々の思いを、太平洋戦争での祖国を三つまたぎ、韓国全土の犠牲者を哀悼するものだった。

だが、反対派の左派系市議員は、彼らは軍閥の手探りだ。彼らは慰霊碑を、日本の勢力が市長の権限を侵すための手段と見て、この「日本兵の正式な慰霊の場」を「日本の石碑」に作り替えることに、韓国で実行された人物の名を刻んだ石碑を到底許さないと主張した。

なぜなら、彼らは日本軍に依拠して反日感情を韓国を包みこむことに成功したと見て、この「日本の石碑」を、この韓国の歴史の道標をさかすまの手段と見ていたのだ。

無念だが、日韓交流手応えも

◆慰霊碑撤去

儀式一歩手前まで進んでいたとみられたと感じている。

石碑建立には多くの韓国人が好意的だった。朝鮮人特攻隊が祖国や家族を思いつつ非業の死を吐いたことが韓国側に理解され、同情を生んだから。泗川市長は昨年8月、石碑の敷地を提供してくれたのだと思う。

石碑を制作したのは、韓国の高名な彫刻家だ。東亜日報、韓国日報などには好意的な記事が掲載され、韓国観光公社は「除幕式ツアー」を後押しする記者会見まで主催した。

私たちは、帰郷祈念碑は第一段階であり、最終的には石碑の「平和の礎」のように戦争犠牲者の名前を一人一人刻銘した石碑群にしたいと考え、市長に提案していた。これを機に各地に同様の慰霊碑が建立されるのではないかと見方もあった。

石碑に理解を示していた市長が、なぜ除幕式直前になって態度を変えたのか。地元では「政教に利用された可能性がある。反市長派が直前の上で市長に打撃を与えようとした」との見方があるという。もしそうなら誠に心外だ。贖罪の気持ちは行動で表したいと除幕式参加のため訪韓していた韓国の日本人30人を巻き添えにしたのだから。

ただ、反省もある。反対派の「ムニヘンケーション」が不足していた結果、「特攻兵の慰霊碑」という言葉が独り歩きしてしまっただけの悪影響は正してあげられなかった感がある。除幕式が中止になったあと、碑文の修正を提案するなど、反対派と話し合いの場を設けようとした。早々の撤去は残念だ。私有財産である石碑の無断撤去は容認できない。

そして、今後のことは、今回の件を韓国の中央メディアが全く報じていなかった。日韓新時代の中、これを題材に改めて歴史認識や民間交流のあり方について論じられたらと思う。